

主 題：訴え合うことを止めなさい

聖書箇所：コリント人への手紙第一 6章1-11節

さらに、コリント教会の問題は地域への証を失っていたことでした。私たちイエス・キリストの救いに与った者たちは、周りの人たちにキリストのすばらしさを証するという責任があります。イエスが「:14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。…:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:14、16)と言われました。主が言われたことは明確です。私たちは「世界の光である」、つまり、個人としても群れとしても、教会の責任は主なるキリストのすばらしさを輝かせることである。そのことを通して人々が父なる神を崇めるようになること、その証を見て人々が同じようにこの救いに与り、この方を誉め称えるようになることです。

パウロは別の箇所でも「:15 私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。:16 ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせるかおりです。このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう。」(Ⅱコリント2:15-16)と言っています。「キリストのかおり」、それがあなただとみことばは教えるのです。ですから、確かに、聖書は私たちにこの救いに与ったひとり一人は世に対する証という大きな責任をいただいていること、そのことを私たちは知っています。実際に、そのようなすばらしい証を為していた教会が聖書に記されています。Ⅰテサロニケ1:7-8「:7 こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。」と、今のギリシャのあの一带です。その地域のクリスチャンたちの模範になっていたと言うのです。「:8 主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。」と、もうみながあなたがたのことを言っているからと言います。

すばらしい証が為されている教会、世の光として、キリストのすばらしい救いの光を、また、永遠のいのちという希望の光を放つべき教会が、その使命を果たしていないとするなら、それはまさに悲劇です。それがコリント教会であったのです。彼らの不品行は教会外に地域に知れ渡っていました。周りの人たちは、あの教会には不品行の人がいて教会はそれを容認していると、喜ばれない証が為されていたのです。私たちがよく知っていることは、証を立て上げることには時間を要しますが、それを失うのはあつという間だということです。

今朝もコリント教会の罪を戒めるパウロのメッセージを学びます。ごいっしょに見ていく箇所はⅠコリント6:1-11です。

A. コリント教会の罪 1-6節

どのような罪がコリント教会にあったのか？不品行を容認するだけではなかったのです。

1. 兄弟間の問題 1a節

1節を見てください。「あなたがたの中には、仲間の者と争いを起こしたとき、それを聖徒たちに訴えないで、あえて、正しくない人たちに訴え出るような人がいるのでしょうか。」、先ず、パウロが教えることは、この教会には、兄弟姉妹の間に問題が生じたときに、それを正しく扱っていなかったという罪です。「仲間の者と争いを起こした」とありますが、この「争い」ということばは「事件、問題、訴訟」という意味があります。ですから、この箇所を直訳するとこうなります。「あなたがたのうちのだれかが他の人に対して問題が生じた時」と、教会の中で兄弟姉妹の間で他の人に対して何か問題が生じたとき、不平、不満が起こったとき…とパウロは言います。

そのようなことが起こったとき、では、どうすればいいのか？それがパウロのメッセージです。今見て来たように、これはクリスチャンと教会外の人とのことではありません。教会内でのことです。「あなたがたの中には、仲間の者と争いを起こしたとき、」と、教会内で兄弟姉妹たちが問題を抱えたときに、それを正しく扱っていなかったのです。彼らがしていたことは、兄弟に対する不満や問題を司法に訴えて訴訟に出るようなことでした。クリスチャンたちが互いに訴訟を起こすなどということ、これは考えられないことです。でも、この教会ではそのことが実際に行われていたのです。

確かに、私たちは救いに与っていますが罪人です。兄弟姉妹の間でも様々な問題が生じるでしょう。「あの人はどうしても苦手だ…嫌いだ」とか、正しくないことですが、そのようなことは現実の問題としてあるでしょう。それも問題ですが、さらなる問題はそれをどう解決するか？です。そのことをパウロが教えてくれるのです。

2. 間違った解決策 1b節

この教会がやっていた解決策は「それを聖徒たちに訴えないで、あえて、正しくない人たちに訴え出るような人があるのでしょうか。」と書かれています。本来なら、「聖徒たち」、すなわち、教会にある霊的なリーダーたちですが、彼らに入ってもらって聖書的な解決を求めるはずですが、彼らはそのようにしないで、この世に訴え出たのです。そこに問題があったのです。なぜなら、この世にあってさばく人たちは例外を除いて「正しくない人たち」と書かれているからです。この「正しくない」とは「不当、不義」ということです。これは裁判官が不正を働くということを行っているのではありません。彼らの霊的状态のことです。つまり、神の前に罪が赦されて正しくされていない人たちがさばいているということです。敢えて、例外を除いてと言ったのは、私もある裁判官がイエス・キリストを信じるすばらしい裁判官であったことを今でも記憶しているからです。そういう方もいるでしょう。

でも、往々にして、救いを受けていない人がさばきの席に着いているなら聖書に適った解決はないでしょう。クリスチャンであればすべてのことを通して神に喜んでいただくとするはずですが。言い方を変えるなら、神が喜ばれることを願ってすべてのことを行うはずですが。神を知らない人の前で主にある兄弟姉妹の非難を口にするなら、全く良い証がなされないことは言うまでもありません。兄弟姉妹が憎しみ合っていてどうして神の愛を伝えることができますか？互いに赦し合いなさいと教えられていながら赦し合っていないなら、そのことを神は喜ばれるのでしょうか？

パウロが言いたいことは、もし、様々な問題が生じたなら、聖徒たちに相談をして聖書的解決を引き出すことが大切だということです。もちろん、ただ相談するだけではありません。聖書的に考えて解決を図ることが大切です。確かに、いろいろなことが起こります。だれかの発言で傷ついたと感じる人もいます。だれかの仕草をみていやだと思える人もいます。でも、私たちにとって大切なことはそのような場面に遭遇したときに、そのような思いを私たちが抱き始めたときに、どのように対処するかということです。私たちの選択は常に神が喜ぶことを考えてそれを選ぶことです。そのメッセージが繰り返してこの中に出て来ますが、そのことを覚えながら私たちはみことばを見ていくことです。

ですから、パウロはこの教会の人たちが兄弟姉妹の問題に正しく対処していなかった、神を知らない裁判官のところに持って行って、兄弟姉妹の悪口を言い合うようなことが行われていたから、彼らの間違いを悟らせようとするのです。

3. 罪の矯正 2-6節

この箇所を見ると、パウロが一生懸命彼らの罪を矯正しようとしていることがわかります。2節には「あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。」とあります。見ていただきたいのは「あなたがたは、…知らないのですか。」というフレーズです。これはこの6章の中に6回出ています。この2節と3節、9節、15節、16節、19節です。これは修司疑問文です。つまり、もう答えは分かっているのです。パウロは彼らがパウロから教えられた真理を思い起こすことによって間違いを矯正しようとするのです。「あなたがたは知らないのですか？…知っているでしょう！学んだでしょう！」と、彼らを正しい道へ導こうとするのです。

1) さばき人

(1) 世界をさばく 2節 : では、彼らが「知っているはず」のことは何か？それは「クリスチャンとは『さばきを行う人』であるということ」です。聖書にはそのことが記されています。Ⅱテモテ 2:12「もし耐え忍んでいるなら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちを否まれる。」と、また、黙示録 2:26にも「勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。」とあります。「治めるようになる」「支配する」と言います。つまり、イエスが地上に帰って来られる、その後、千年王国を築かれるときに、イエスが王としてすべてを治めるときに私たちがクリスチャンもいっしょに治めるということです。

その上でパウロはこのように言います。「世界があなたがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたは、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。」と。「ごく小さな」とは「全く重要でないこと」です。ごく些細なことで私たちがはめたりします。「事件さえもさばく」とは「解決する、判定する」ということです。そんな力がないのか？と、いろいろな出来事を見て、どのようにそれらに対処することが、どのような判断をすることが神の前に正しいのか、そういうこともできないのか？あなたがたは世界をさばく者なのに、そんな些細なことでさえ判定できないのですか？と言うのです。

パウロはあなたがたはどうして兄弟間の問題を正しく扱えないのか？と言います。

(2) 御使いをさばく 3節 : さばきを為す人として、この世界だけではありません。二つ目は3節に「私たちは御使いをもさばくべき者だ、ということ、知らないのですか。」とあります。「御使いをもさばくべき者」だと言います。これは天使たちをさばくということです。「天使」は被造物の中で最も優

れた存在です。恐らく、ここで言わんとしていることは、私たちは神によってさばかれる罪に墮落した者

たち、罪を犯した天使たちをともにさばくということです。すでに見て来たように、創世記にあった特別な罪を犯して閉じ込められている悪霊たち、同時に、今この世にあってサタンに仕えながら人々を惑わし続けている悪霊たち、このような罪を犯した天使たちを私たちは主とともにさばくのです。

その後このように続いています。「それならこの世のことは、言うまでもないではありませんか。」と。このフレーズはここにしか出て来ません。強調しているのです。つまり、パウロは「あなたがたは世界だけでなく天使たちをもさばく者でありながら、教会の些細なことを正しく扱えないのか？」と言うのです。大変厳しくそのことを責めるのです。

4節の初めにある「それなのに」という接続詞に注目してください。さばきを行う人でありながら、間違っただけを選んでおくと、改めて彼らの間違いをパウロは4-6節で指摘するのです。どのような罪を犯しているのか？

a) 間違っただけで選出 4節 : 「それなのに、この世のことで争いが起こると、教会のうちでは無視される人たちが裁判官に選ぶのですか。」と。ずっと見て来ているように、教会の兄弟姉妹の間で問題が生じたときにどうするのか？「教会のうちでは無視される人たちが」と書かれていますが、「無視される」とは「軽蔑される」ということです。意外に思うかもしれませんが。世の中ではこのような働きをしている人(裁判官)は人々から尊敬されます。でも、教会はそんなところではありません。どんな仕事をしているかはどうでもいいことです。私たちはイエス・キリストを信じる者として「兄弟姉妹」と言うのです。残念ながら、ここに書かれているのは先ほども見た「正しくない人に訴える」のように、人間的に見てこの世では地位が高いかもしれないが、問題は神の前にどうか？です。彼らが神を知らないのなら、教会から見るとこの世と同じではありません。パウロのことばによると「教会のうちでは無視される人たちが」です。価値を見出さないからです。

どのような地位にあっても、イエス・キリストの救いを受け入れていなければ永遠の滅びに向かっていきます。ですからパウロは、私たちの人生でいろんなことが生じるけれど、そのときに教会において霊的に重んじられていない人たちがあなたがたをさばく裁判官に選ぶのか？選ぶ人が違うでしょうと言うのです。本来なら、正しく、神のみこころに沿って何が正しいのかを教えてくれる人を選ぶはずだ、それを知らない人をなぜ選ぶのかと言うのです。

b) 正しい仲裁者の不在 5節 : 「私はあなたがたをはずかしめるためにこう言っているのです。」、前にパウロは「はずかしめるためではない」と言いました(4:14)が、ここでは「私はあなたがたをはずかしめるために」と、あなたがたのその恥ずかしい部分を公にすると言うのです。なぜなら、彼らが悔い改めようとしなからず。こう言います。「いったい、あなたがたの中には、兄弟の間の争いを仲裁することのできるような賢い者が、ひとりもないのですか。」と、何がいったい神の前に正しいのか？この状況で何がいったい神に喜ばれるのか？そのようなことが判断できるような神の前に賢い人はいないのか？と言うのです。繰り返しますが、私たちはみことばに照らし合わせてどのような選択をするべきかと言います。この世の基準に照らし合わせて考えるものではありません。

ですからパウロは、教会の中にあってもいろんな問題が生じたときに、聖書的にそれをどのように解決すべきか、そのことが判断できないという問題を指摘するのです。「賢く判断できる人はだれもないのか？」と言います。

c) 間違っただけで証 6節 : 残念ながら、このようなことを通して間違っただけで、喜ばしくない証が為されていたのです。6節「それで、兄弟は兄弟を告訴し、しかもそれを不信者の前でするのですか。」と。これは最悪です。クリスチャンがクリスチャンを訴えているのです。しかも、神を知らない人たちの前で…。どんな証が為されていますか？そんな教会の人に関心を抱きますか？そんな神に人々は引き寄せられて行きますか？クリスチャンが互いに罵倒し合っている、憎しみ合っている、相手に対して怒りを持っているなど…。これがコリント教会の現状だったのです。

B. 悪影響をもたらした罪 7-8節

そして、このような罪が解決されていないと、間違いなく、罪は悪い影響を及ぼします。パンにカビが生えたとあっという間に広がっていきます。同じように、どんなに小さな罪でもそれを放っておくなら、全体に影響を及ぼします。7-8節「:7 そもそも、互いに訴え合うことが、すでにあなたがたの敗北です。」とあります。裁判のこと、訴訟のことを話しているので「敗北」とはその訴訟に敗訴したことなのか？そんなことを言っているわけではありません。これは「霊的な敗北」のことです。

1. 憤りの罪 7節

パウロが言いたいことは、兄弟に対して訴訟を起こすこと自体が神のみこころに反しているということです。なぜなら、訴訟を起こすのは間違いなく相手によって自分が何らかの損害を被ったからです。

物質的かもしれないし精神的なものかもしれません。その相手が行った事柄に関して憤りを持つのです。

「こんなことをあの人がしたとか、こんなことをあの人が言ったとか…」、当然、被った人の心の中には憤り、怒りがあるので、訴訟という行動を生み出すのです。人間はそのように働きます。憤り、怒りというもの、この罪が間違った選択を生み出していくのです。

ですから、聖書の中では「憤り」ということばはほとんど悪い意味で使われています。ガラテヤ5：19、20に「:19 肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、…」と続きます。エペソ4：31でも「無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。」と語っています。コロサイ3：8にも「しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。」とあります。みことばはちゃんと教えています。このような「憤り」は捨てなさいと。救いに与った私たちからこのようなものは捨てなさいと言うのです。でも、それらを放置しているとそれが大変な罪を生み出すのです。罪が罪を生み出してそれがどんどん膨れ上がっていくのです。では、

☆私たちキリスト者として、どうするべきだったのでしょうか？

パウロは教えます。7節の続きに「なぜ、むしろ不正をも甘んじて受けないのですか。なぜ、むしろだまされていないのですか。」とあります。人から不正を受けたとき、不当な扱いを受けたとき、それを甘んじて受けないのかと言うのです。「だます」とは「剥ぎ取る、人から物を詐取する」ということで、そういう目に会ったときはどうするのか？パウロが言うことは、人があなたに不正を働いたら、訴訟の代わりにそれを甘んじて受けなさい、だまされていなさいということなのです。

さて、こんなことを聞くと「それはおかしくないですか？やられたらやり返す、これが普通ではないですか？」と私たちは思います。では、なぜパウロはこんなことを言ったのか？それは「最後の審判が来るから」です。この世界のこと、この地上のこと、今私たちが生きているこの間のことしか考えていない人たちには、こんな不公平な扱い、理不尽な扱いを受けたなら怒って当然でしょう。でも、私たちクリスチャンは新しい目標をもって生きる新しい人生を歩み始めたのです。それは「こんな私を救ってくださった神を喜ばせる」という目標です。それなら、人が私に対して不正を働いたときに、私の肉は不正をもって応じなさいと言うけれど、神はそう言われぬ。人の悪に対して私たちは「善」で応えるのです。人がだました場合も、その人の悪に対して善で応えるのです。あなたの責任はどんな場合も何が主の前に喜ばれるのかを考えてそれを選択することです。

そのように神の前に正しい選択をしているなら、あなたが主の前に立つときに、主はあなたのすべてに対してそれにふさわしい報いをくださるのです。私たちががっかり覚えなければいけないのは「その日」です。私たちの審判者は神なのです。その方の前に立つ日が来るのです。そのときにすべてのことが公正に清算されるのです。その日をしっかりと覚えながら今日を生きていく、それが私たちです。パウロが言うように、ローマ12：21「悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」

1ペテロ3：9にも「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。」とあります。人があなたに悪を為したときはあなたは彼を祝いなさい、あなたを侮辱したときにも彼らを祝福しなさいと、なぜなら、こう続きます。「あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」と。驚くようなことをみことばは私たちに言います。

なぜ、こんなことを神は私たちに言われたのか？繰り返しますが、私たちが生かされている目的は、この地上でどれだけの富を得るかではないし、どれだけの金を積むか、名誉を得るかでもないのです。私たちがこの地上を生きる目的はただ一つ、私たちの神に喜ばれることです。この神に喜んでいただいたなら私たちは生きるべき人生を生きたのです。この神に喜んでいただいたなら私たちは歩むべき道を歩んだのです。そのために私たちは生きているのです。だから、私たちの肉が完全に反発すること、そうです！「悪に対して悪で報いるのではなく善で応じなさい」と、肉は反発します。でも、それが神のみこころなのです。

この教会がしていたことは「悪に対して悪で報いていた」のです。兄弟姉妹の間で争いがあった。それを神を知らない人のところに持って行って、すべての問題を明らかにして「クリスチャンとはこういう者です。問題があったなら互いに訴え合うのです。こうして訴えて私の願いを何とか通そうとするのです。相手がそれによってどのように傷つこうとそんなことはどうでもいいのです。私の願望さえ満たされるなら…」と、こんな行いによって為される証が神に喜ばれるのでしょうか？いいえ、神の栄光を汚すものです。

つい先日、11月2日だったと思いますが、テキサス州ダラスでボッサム・ジーンという一人の人物の殺害の判決が下りました。被告は警察官のアンバー・ガイガーという人です。皆さんもニュースでご覧になったかもしれません。10年間の実刑が下ったのです。彼女はアパートの自分の部屋を間違えて一つ上の階に住む男性の部屋に入り、そこにいた黒人男性を不法侵入者と思って射殺したのです。彼は26歳、しかも、教会で礼拝をリードする人物であり、会計士としての仕事もパートタイムでしたが始めていました。すばらしい信仰者だったと言います。この実刑が下った裁判の日に、裁判長が遺族に「被告に何か言うことはあるか？」と問うたときに彼の弟ブランドが被告にこのように言います。「もし、あなたが本当に申し訳ないと思うなら僕はあなたを赦します。そして、もしあなたが神のところに行き、そして求めるなら、神もあなたを赦してください。私はあなたにとっての最善を願っています。兄も同じことを願っていることを私は知っています。そして、最善のことはあなたがすべてのことを主イエスさまにささげることです。」と。この様子は全米に流れました。クリスチャンの証です。赦すことの大切さです。

コリント教会はそのことをしなかった。コリント教会は互いを訴え出していたのです。こうして、彼らは憤りの罪を持ち、そして、その罪が自分たちの心を支配し行動へと導いていくことを赦してしまっていたのです。

2. 悪を行う人 8節

悲しいことに、8節を見てください。「ところが、それどころか、あなたがたは、不正を行う、だまし取る、しかもそのようなことを兄弟に対してしているのです。」、そういう被害を被るだけでなく、実際に、彼らがそのことを行っていると言うのです。彼らが兄弟に対して不正を行い兄弟からだまし取っていると。こういう罪を犯していたのです。皆さん、私たちは罪の恐ろしさを知っているようで本当には知っていません。どんなに小さな罪でも「これ位なら…」とそれを容認するなら、それはいつの間にかあなたの中で膨れ上がって、まさにパン種のように、あなたを支配することになります。ここに記されていることはまさにそうです。罪を容認することによって罪に支配されるのです。その結果、私たちは神から望まれている証を為すことが出来なくなってしまうのです。

C. 罪の悔い改め 9-11節

そこでパウロは彼らに対して改めて罪の悔い改めを強く命じるのです。9節「9 あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。」、「知っているでしょう?」と言います。「正しくない者は神の国を相続できないことを、」あなたがたは知っているはずですよ。「だまされてはいけません。」と命令が記されています。いろんな思いが出てくるし、いろんな人がいろんなことを言うけれど「だまされてはいけない」と言うのです。そして、パウロはこの後、かつての人々の姿、救われる前の彼らの姿を明らかにしていきます。なぜなら、そういうかつての罪を今も続けている人たちがいたからです。すでに見て来たように、この教会には高慢の罪がありました。不品行を容認するということも為されていました。そして、今見ているように、人々が人々を訴え合っていた、人を赦さないというそのような群れであったと。罪から離れようとしなない人たちがいたのです。そこでパウロは、もう一度神があなたに与えてくださった恵みを思い起こしなさいと言うのです。それがここに記されています。

「あなたがたがこの救いに与る前、神の国を相続できない状態にあったとき、救われていないときのあなたの特徴とは?」と10個が記されています。でも、その内の6個は5:11に出ていました。ですから、簡単に見ていきます。

1. 救いに与る前

- 1) 不品行な者 : 性的な罪ですが、特に夫婦でない男女が密かに肉体関係をもつことです。
- 2) 偶像を礼拝する者 : これは「偶像」と「奴隷」ということばからできています。何かに対して奴隷になっているのです。お金かもしれない、名誉かもしれません。
- 3) 姦淫をする者 : これも性的な罪ですが、これは既婚者による伴侶以外との肉体関係のことです。不倫などと言われますが、それらはここに入ります。
- 4) 男娼となる者 : 5) 男色をする者 : 多少の違いはありますが、この二つのことばが教えているのは「同性愛」です。百科事典によれば、古代ギリシャにおいて少年・青年同志の性愛が社会体制になるほど盛んであり、一般的であったと言われていました。少年の売春宿が公然と存在したと。少し前まで、LGBTという頭文字を目にしました。今はそれにQや+がついて、それらに属さない人がいるからと…。Lはレズビアン、女性同愛者の頭文字です。Gはゲイ、男性同性愛者の頭文字です。Bはバイセクシャル、両性愛者の頭文字です。Tはトランスジェンダー、体と心の性が一致しない人、その頭文字です。統計によれば、日本人の20人に1人がそれに該当するとあります。社会はだんだんその人たちを受け入れる必要がある、寛大であるべきだとなっ

ています。では、聖書は何と言っているか？「…みな、神の国を相続することができません。」と書かれています。聖書はそれは罪だと教えます。人間が神を拒み続け自分の快樂のままに生き始めるとき、いろいろな罪が出て来ることは聖書が教えることです。特に、ローマ書1章に同性愛のことが記されています。聖書に戻るなら、神は初めに男と女を造りそれが夫婦でした。それ以外は夫婦ではないのです。もし、たとえば、性同一障害なら、からだは女性で実際は男だ、その逆も、それは何を意味するのかということ、神は創造において失敗したということです。聖書はそんなことを教えていません。神がなさることはすべて完全です。人間が自分の快樂のままに歩もうとするから、神の教えに逆らって好き勝手に生きるのです。近いうちに日本においてもこれが罪だということになって大変大きな問題になるでしょう。世界ではもうなっています。

私たちは彼らを憎みません。他の罪と同じように、私たちは彼らが罪人であるとみことばが教えるとおりに信じます。だから、私たちは彼らを愛して何とか彼らが救われるようにと福音のメッセージを語り続けていくのです。それが私たちの責任です。でも、確かに、みことばにはこのようなことが記されていて、ここから救いに与ってこのような生活から解放された者たちがこの教会の中にいたことが想像できます。

6) 盗む者 : これは言うまでもありません。

7) 貪欲な者 : これは「より多く」と「持つ」ということばから成ります。もっと欲しいと欲望の虜になっていて、いつまで経っても満足しない人のことです。

8) 酒に酔う者 :

9) そしる者 : ののしる者、悪口を言う者、ことばによって人を攻撃するのです。エペソ4:29に「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」とある通りです。

10) 略奪する者 : 強欲な者です。何とかして手に入れようとするのです。

パウロはこのようリストを上げました。11節にその理由が書かれています。「あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」と。

2. 救いに与った 11節

確かに、あなたがたはこのような生活をしていた。でも、今あなたがたは救いに与ったと、そのことをパウロは最後に教えるのです。「あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」と神のみわざが記されています。この三つの動詞はすでに成されたことを示します。

1) 洗われ : 罪を洗い聖めていただいたことです。詩篇51:7には「ヒソブをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。」とあります。イザヤ1:16「洗え。身をきよめよ。わたしの前で、あなたがたの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。」、信仰者の皆さん、あなたのすべての罪は、過去も現在も未来もすべてイエスによって洗われたのです。みことばが言うように、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって聖霊なる神が私たちのうちに働いてくださる。そして、神が私たちを聖めてくださった、洗ってくださったのです。この三つのことは「救いのこと」を言っています。救われた私たちは罪の汚れを神によって洗ってもらったのです。

2) 聖なる者とされ : 私たちは聖なる神によって聖なる者とされたのです。私たちクリスチャンのことを「聖徒」と言いますが、それは罪が聖められて聖い者とされたからです。

3) 義と認められたのです : 義なる神が私たちを義と認めてくださったのです。「正しい」と私たちのことを神が宣言してくださったのです。

これがクリスチャンです。私たちは罪を聖めていただき罪を洗っていただき聖なる者とされ、そして、神の前に義とされた者です。義とされたゆえに、聖なる者とされたゆえに、罪を洗っていただいたゆえに、私たちはこの義なる神の前に立つことが出来、この神とともに永遠を過ごすことが許されたのです。ですから、私たちが神が成してくださった恵みを覚えるときに、では、私たちはこの神に対してどう生きることがふさわしいのかと、そのことを考えるのです。

私たちはすぐに神の恵みを忘れてしまう者です。同じことを繰り返しているうちに感謝が無くなってしまふ。ときに立ち止まって考えなければ、「いったい私は何のためにやっているのか？」と問い掛けてみなければ、同じことの繰り返しです。パウロは「もう一度あなたに与えられた救いのすばらしさを思い出して見なさい。こんなにすばらしい祝福を神はくださった。かつてのあなたは神の国にふさわしくなかった。でも、神があなたを洗ってくださった。あなたを聖めてくださった。あなたを義なる者としてくださったのだから、今、あなたはこうして祝福の中を歩んでいる。思い出してみなさい。」と言います。では、救われた者としてどのように生きていくのがふさわしいのか？この神の前にどう生きる

のが正しいのか？パウロは言います、「罪から離れなさい！」と。それがパウロのメッセージだったのです。そして、救ってくださった主のすばらしさを証する者として日々を過ごしなさいと言います。

今日、私たちが見て来たパウロのメッセージ、いつまで経っても罪から離れようとしない。挙句の果てに、兄弟が兄弟を訴えるのです。悲惨な証を立てている教会、兄弟姉妹たち、パウロは言います。

「考えなさい。」と。私たちは神のすばらしさを証するために救われたのです。そして、救われた者として神に喜ばれることをいつも選択して生きる。それが私たちの人生です。それ以外の目的はないのです。そのために生きているのです。今、私たちはパウロのメッセージを見て来ましたが、ペテロも同じことを言っています。I ペテロ 2：9-12、まさにこれがパウロ自身も言いたかったことでしょう。そこにはこのように書かれています。「:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。」、つまり、救われたということです。「それは、」と続きます。目的です。何のために救われたのか？「あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」、ちゃんと書いています。救われた目的は、あなたがこの神のすばらしさを、すばらしいみわざを宣べ伝えるためだと。「:10 あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。」、救われたのでしょうか？と。「:11 愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」、罪から離れなさいと。

「:12 異邦人の中にあつて、りっぱにふるまいなさい。」、証のことです。「そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行いを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」、

思い出しませんか？イエスのことばを…。マタイ 5：14、16 「:14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。…:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」と、同じことです。みことばが私たちに言うことは、しっかりと神の証をしなさい、ことばだけでなく私たちの歩みをもって主のすばらしさを証していきなさいです。それが私たちに託された大きな責任です。

信仰者の皆さん、この1週間、いろんなことがあるでしょう。神はあなたに学ぶ機会をくださったのです。その中でいったいどの選択が神に喜ばれるのか、そのことを祈りながら、神の知恵と導きをいただきながら選択することです。それを神はお喜びになるのです。そして、そのときに証が成されるのです。そのようにしてこの1週間歩んでいきましょう。